



© 2007 Universal Studios. ALL RIGHTS RESERVED

チャーリー・ウィルソンズ・ウォー

**本当に罪深いのは、実は悪意ではなく、
「無関心」だということかもしれない。**

美女と美酒に目のない国会議員が、彼のトレードマークとも言える「お気楽さ」を放り投げるきっかけとなったのは、たった数分のニュース。そこで流れていたのは、ソ連に攻め入られるアフガニスタンの悲惨な現状だった。アフガニスタン、と聞いてその位置を正確に地図上で示すことができるだろうか。恥ずかししながら、アタクシは一瞬「？」が脳内に蔓延った。だって、あのへん一帯って「~タン」って国が多いんですもの！

そんな己の無知さも含めて、この事実に基づいた物語に登場するお偉いさん方の無関心さには憤りを感じ

ずにはいられない。この際、己のことは棚上げてでも、世界平和を願ってしまう。たとえそれが無責任な願いだとしても、無関心よりはなんぼかマシである。

たったひとりの破天荒な議員と、彼の心を動かす破天荒なセレブと、彼に心を動かされた破天荒なスパイが進めた極秘プロジェクトの真相は、アフガニスタンがどこにあるか知らない者にこそ突き刺さって然るべきだ。もちろん、大奥さながらの美人秘書軍団「チャーリーズ・エンジェル」の有能ぶりも見モノ。

(山田涼子)

■「チャーリー・ウィルソンズ・ウォー」
■5.17(Sat)~
■MOVIX京都、TOHOシネマズ二条、他
■監督/マイク・ニコルズ
■出演/トム・ハンクス、ジュリア・ロバーツ、フィリップ・シーモア・ホフマン、他
<http://www.charlie-w.com/>

Catch!
the entertainment

イベント・ライブ・演劇に映画、
CDリリースから書評に至るまで、
骨太entertainmentを丸飲み!

MOVIE

5.17~
(sat)

街場

肩の力を抜いて、自由に語ろう...
京の街と付き合うというとき。

演算

保伊戸宵
(ほいとよい)

〔第9回〕

さて桜散れば、祭がシーズン・イン。
神輿を担ぐ町衆を眺めて考えたこと、
それは近所のええ店のこと。

春の訪れ(京都では、春が正月であり、1年の始まりである。梅や桃や桜の花を観ることで、春が来たなあ、新しい歳を迎えたなあ、嬉しいなあ。てな心になるのである)を、まさに感じるようなコラムを小誌のメールマガジン(3月25日号)に、五所光一郎氏が書いておられた。

そう、京都で春を感じる場所というのは、蹴上のインクライン沿道もいいが、神社仏閣というのがこれまで当たり前前の話である。自分的には年に一度だけ、木屋町を歩きたくなるのは桜と柳が見事なコントラストを描く頃である。そんな柳と桜を観ると、ついつい「おどり」や「をどり」の切符と弁当の予約をしようするのであるが...。いやはやそれは粋なのか無粋なのか...

話が少々脱線し始めたので、本題に戻すと、そんな春を感じさせる梅や桜咲く各神社では、春11月が過ぎゆき、桜が散ると、夏に向けて、五穀豊穣や疫病退散を祈るべく祭りのシーズンに突入である。このコラムが出るころには、すでにいくつかの神幸祭が滞りなく行われている(ことだろう)。

まずトップバッターは4月20日は松尾大社の神幸祭である。桂大橋のたもとで、船(保津川下りの船である)に乗せて六社の神輿が桂川を渡る。

おそいひと

MOVIE

5.10~
(Sat)

主役・殺人犯、主演・本物の重度身体障害者。
日本映画史にパンクに殴り込む問題作！



© 2003 SHIMA FILMS All right reserved

「リンダリンダ」の山下敦弘を輩出した大阪芸術大学映像学科出身の柴田剛。轟音ノイズとパンク的な映像作品がトレードマークだが、同作の主人公は「重度身体障害」という、これまたノイズに満ちた男。

キーボードを使って会話し、電動車椅子で移動する住田は介護者と穏やかな日々を送っていた。そこへ女子大生・敦子がヘルパーとして来たことから、住田は自らの欲望や衝動を抑えられなくなる。「来るものを受け入れるな、体が持たないぞ」という障害者仲間の忠告に背を向

け、彼は電動車椅子に乗った狂気の「襲(おそい人)に変貌してゆく…。

障害者が殺人犯という設定には当然賛否あるうが、まずは重度障害者という過剰な存在に引かず、また引きずられず日本映画史上最高に謎めいたキャラを造り上げた監督の力技に拍手。製作から8年、海外の映画祭で高い評価を受けたものの、国内公開までに3年の歳月を費やした問題作。

(沢田眉香子)

- 「おそいひと」 ■ 5.10(Sat) ~
- 京都シネマ (レイトショー) ■ 監督/柴田剛 出演/住田雅清、他
- 問い合わせ075・353・4723 (京都シネマ)

あの空をおぼえてる

天国の妹へ、少年の手紙が、届くことを信じたい。

MOVIE

公開中



© 2008 「あの空をおぼえてる」 フィルムパートナーズ

試写仲間から事前に「ハンカチ必須！」のメールをもらい、RAAK手拭い持参で挑んだ試写日。

ある日突然、幼い長女に降りかかる悲劇…そんなはじめ、卑怯だ。泣くに決まってるじゃないですか。彼女の悲運ももちろんですが、それ以上に、残された家族の深い傷が胸に刺さる。穏やかで、愉快な思い出があるからこそ、余計に。

原作は、ジャネット・リー・ケリーの「あの空をおぼえてる」(ポプラ社刊)。こちらは、11歳の少年が死んでしまった7歳の妹宛に、毎日

書き続ける手紙で構成されている。それを、美しい映像と効果的な演出で映画化に成功した富樫監督に拍手喝采！

さすが「天使の卵」の映画化で、弊誌編集長にレビューを書かせた(別作品のレビューだったが、好意的にひきあいに出していた)御仁だけのことはある。

クライマックス、少年の手紙が「泣きの山場」。覚悟してご覧あれ。そして、存分に涙してほしい。(山田涼子)

- 「あの空をおぼえてる」
- 公開中
- MOVIX 京都、他
- 監督/富樫森 出演/竹野内豊、水野美紀、広田亮平、吉田里琴、小日向文世、他
- <http://www.sonypictures.jp/movies/anosora/>

祭りのことを書くとき尽きないのだが、最後に言いたいの、京都は町に生きる町衆の寄り合いでなんとなく互助的に成立しているところなのである。だから豆腐屋と同じ数だけパン屋が町にはある。それはどこも近所のええ店であり、町衆とともにある。その意味でパン屋が町にあること、このなれ加減は、京都は全国随一といえるのではないだろうか。

それがたまらないし、面白いのである。

それはまさに中世に確立した都市特有の、世界中で発生したパレードの最もたるもの。輿に神さんに乗せて町中を練り歩く。そしてその周りを賑やかしが盛り上げ発展してきたのである。

御旅所は西七条、JR西大路駅の近くである。また松尾大社からえらい遠いところに御旅がある…と思うだろうが、この祭りというものは、京の碁盤の目を囲むように配置された神さんを、平安・鎌倉・室町期のいわゆる非農業者が、町に神迎えをする行事として始まったのである。松尾大社の氏子園は、宋や明からの荷が京へ入る貿易拠点ともいえる今の七条西大路周辺であり、伏見稲荷(4月後半)5月頭は京都駅周辺から、昔は演芸の町として栄えた河原町五条辺りまで。また祇園祭(7月中)の氏子園は、北は御池、西は大宮、南は五条とまさに今も昔も繁華なエリアである。そう、神輿は洛外から洛中の町衆の生活&商業圏へやってくる。

保伊戸青(ほいと・よい)ノフリ！エディター、コピーライター。年齢を重ねることに、付き合いや寄り合いが増えてくるのは嬉しいことである。町に面倒見ってもらってきた自分がいざ面倒見番になっってきた…と実感。